120年の歴史をもつ神戸元町商店街活性化に尽力

NPO法人ソーシェア理事長 東村奈保さん

社会的課題をシェアして解決へ

東村奈保さん

「今の私の使命は神戸元町商店街に人を集めることです」と語るのはNPO法人ソーシェア代表の東村奈保さん。また、合同会社神戸まち会議、株式会社ビビッド・ワークス、株式会社ヒトトバの代表でもある。

120年の歴史をもつ神戸元町商店街は元町通1丁目から6丁目までの1・2キロ、三宮までのアーケード付き商店街だが、今は通路になってしまい、空き店舗が増えつつある。

商店街の空き店舗対策は神戸元町に限らず、全国レベルの課題であり、多彩な取り組みがなされているが、東村さんがキーポイントにしているのが「シェア」である。ソーシャルの課題をシェアする、共有することで解決していく、その目的で2013年2月にNPO法人ソーシェアを設立した。（ソーシャルとシェアの掛け合いでソーシェア）

大阪・吹田、東住吉でシェアハウスを運営

「今は神戸に住んでいますが、設立当初は大阪でコンセプト型シェアハウスを始めました。シングルマザーや起業家の育成、ネコ好きといったコンセプトで、関東から増え始めました。

シェアハウスは敷金と礼金がないのがほとんどで、平均滞在日数は半年です。ベッドやエアコン、家具類も全て揃っているので身軽に利用できます。私は現在、吹田と東住吉で2軒のシェアハウスを運営しています」（東村さん）

2軒のコンセプトは、「住民と地域と農家がつながる」というもの。毎月1回、近隣農家が作った野菜などをシェアハウスの軒先に並べて朝市を開き、地域の人が買いに来ることでコミュニケーションの場が形成されている。地元工務店の所有物件を家賃11万円で借り受け、5部屋を1部屋4万円でサブリースしている。

回遊型図書館「ぐるぐるライブラリー」を推進

2014年12月に元町通6丁目（モトロク）に「TUKURU」＝写真＝をスタートした。これは、モノづくりのクリエーターのためのシェアスペースで、店を持てないクリエーターたちの作品を展示販売している。また、昼はカフェ、夜はバーとして、モトロクの多様な発信基地と位置づけている。

阪神西元町駅からすぐの所で、きっかけは神戸市と連携しての空き店舗対策だった。

「商店街全体を図書館にすべく、各店舗に本を置く活動をしています。回遊型図書館〝ぐるぐるライブラリー〟と銘打ち、多彩な本が並び、足を止めてもらい、店に入ってもらうのがねらいです」（東村さん）

4月にシェアキッチン「ヒトトバ」をスタート

さらに、今年4月から元町通5丁目でシェアキッチン「ヒトトバ」をスタートした。カウンター8席、テーブル4席でキッチン設備一式を備え、朝8時から午後4時、午後4時から夜12時までをレンタルするという画期的なビジネスモデルである。

「ヒトトバは人と場所を共有し、いろんな方が店主になってもうけてもらうシステムです。使用権を買ってもらい、店の売上げは全て自分に入ります。6月には昼は100%稼働する予定で、夜の利用を呼びかけているところです。

また、スマートロック等で入退出を便利にし、シェアリングシステムの構築を考えています。何でもシェアして、元町商店街を活性化していきたい」（東村さん）

女性活躍推進社会と言われる中、神戸元町商店街で地道に活動を展開している。今年2月にフルマラソンを完走した。

（TEL）078－360－3316
（FAX）078－360－3317

元町通6丁目（モトロク）の「TUKURU」

大阪府立環境農林水産総合研究所

建て替え工事完了 施設を一般に公開

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所（環農水研）は5月20日、全建物の建て替え工事の完了を記念し、羽曳野市にある施設を一般公開した。

環農水研は大阪府環境情報センター、大阪府立食とみどりの総合技術センター、大阪府立水産試験場の3つの機関が統合し2007年に発足、大阪の環境保全、農産物・水産物の安全と安心を総合的に支えている。

「豊かな環境の保全及び創造」『農林水産業の振興』『安全で豊かな食の創造』を図り、府民生活の向上に役立てようと、府が進める府内で栽培・生産される一次産品とそれらを原材料にした加工食品の「大阪産（もん）」に関する開発支援や科学的評価の受託、微小粒子状物質（PM2・5）汚染やアスベストに代表される有害物質に関する調査研究などの情報公開、さらにセミナーやイベントを通じた啓蒙活動を展開する。

今回公開した羽曳野市の施設は22万6千平方㍍の敷地面積を誇り、研究設備の他に農業者を育成する農業大学校や実験畑、畜産施設も備える。

家族連れを中心とした来場者は顕微鏡を使った微生物の観察や、大阪府立大学の理系女子学生による化学実験に参加するなどして楽しんだ。

環農水研の山本達也経営企画グループ調査役は「施設を見学してもらうことで当所に対する興味と理解を持ってもらえれば。試験研究機関として民間事業者の技術支援や快適な府民生活の実現に少しでも協力することが目的だ。特に大阪産を使用した商品の開発や改良などは無償で支援しており、技術サポートを行う『大阪産チャレンジ支援事業』を実施するほか様々な取り組みを行っている。是非利用してもらえれば」と呼びかける。

開会式で挨拶する環農水研の内山哲也理事長（大阪府羽曳野市）

大阪府立大学の理系女子学生（リケジョ）が先生となり、小学生と一緒に化学実験した。「少しでも興味を持ってもらえるよう、工夫してメニューを考えた」と学生は話す

京都コンピューターシステム事業協同組合

総会で事業方針決める

異業種との交流で新商品開発

京都コンピューターシステム事業協同組合（KCA）はこのほど第24回通常総会を開き、今年度の活動方針を決めた。

京都府内の情報通信（IT）事業者で作るKCAは、それぞれの得意領域を地域の活性化に結び付けようと1994年に設立、現在38社が加盟する。

〝地場中小企業のIT化は地場中小IT企業が担う〟をスローガンにこれまで活動、昨年度は組合員企業が落札した京都市の基幹系システムプロジェクトへの開発協力や京都府・市が主催するロボット活用イベントへの協力をはじめとした事業を展開し、組合の知名度向上を図ってきた。

今年度は①異業種との交流による新たな商品開発と販路開拓②更なる組合員同士の交流③他団体との交流―などを基本方針とし、オール京都の協業体制で取り組む。

桑原人司KCA理事長（システム創見社長）は「京都府内には約10万社の中小企業があるが、IT化を進めるにあたっては東京など首都圏の企業が対応しているのが現実。地場中小企業のIT化は地場IT企業が担うためにKCAの存在を知ってもらうことが重要」と述べ、そのために積極的に異業種、他団体と交流し情報の収集、発信に努めることが必要と訴えた。社会的に大きな問題となっている情報漏えいリスク対策にも力を入れ、情報セキュリティ分野でも府や市などと連携しながら活動を強化していく方針。

今年度の方針を説明する桑原人司理事長（京都市中京区、ホテルモントレ京都）

大阪タオル工業組合

ツバメタオル会長 重里豊彦氏を理事長に再任

大阪タオル工業組合（泉佐野市市場西）はこのほど、理事会で新理事長にツバメタオルの重里豊彦会長を選任した。重里氏は平成16年度から3期6年理事長を務め今回再任された。

重里豊彦氏（じゅうり・とよひこ）の略歴

昭和54年3月慶応義塾大学卒業、4月八木商店（現ヤギ）入社、57年5月ツバメタオル入社、平成4年2月代表取締役社長、28年11月代表取締役会長就任。

大阪府出身。昭和32年1月5日生。60歳。

重里豊彦理事長